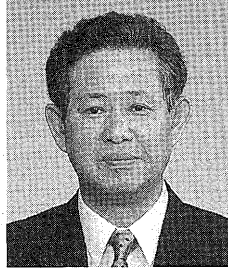


《中学校》

「国語」において発展的な学習を どう工夫するか



上越教育大学教授

有沢俊太郎

「発展的な学習」は、全五項目からなる「二〇〇二アピール『学びのすすめ』」（文部科学省、平成一四年一月一七日）の一項目に盛り込まれて、新学習指導要領の全面实施にあたってのキーワードとなっている。すなわち、項目②に、「発展的な学習で、一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばす」と明記され、学習指導要領に示す内容が最低基準であ

対応のポイント

- ① 発展的な学習が提唱されるようになった背景と経緯を理解する。
- ② 中学校の国語科では発展的な学習としてどのような学習が考えられるか、国語科の教員同士で議論する。
- ③ 発展的な学習として創造的な学習を取りあげた場合、まず、創造性（creativity）を中学校教育でどのように押さえるか明確にしておく。
- ④ 次に、その規定によって具体的な学習指導を構想する。
- ⑤ 創造的な学習が抱える固有の問題点を意識して対応策を練る必要がある。

るとの認識のもと、確かな学力の向上のために「学習指導要領の内容を十分理解している児童生徒に対しては、…理解をより深めるなどの発展的な学習に取り組ませ、さらに力を伸ばしていくことが求められます」と述べている。

また、このような学習を支援するため、国は教科書の内容を工夫する一方、教材開発に積極的に取り組み、教師用参考資料も充実させる必要がある、としている。「発展的な学習」は、中学校国語科においてさまざまな具体化が可能であ

るうが、ここではその一例として創造的な学習を取りあげたい。

発展的な学習としての創造的な学習

創造力 (creativity) は一部の生徒のまれな能力 (才能) である、として特別視する考え方があって、これが創造的な学習を発展的な学習として考えにくい理由となっている。しかし、日常的な習慣性や画一性から脱却して新鮮な刺激を求める願いは、程度の差はあっても中学生の誰にでもあると推測され、この中学生特有のエネルギーを教育的に洗練しないでおくことはない。

そして、この「教育的に洗練していく」という過程のなかに、創造的な学習を発展的な学習として成功させる秘訣が隠されている。

- ① 物事の問題点 (対立点)、物事の欠陥 (欠落点)、物事の溝 (不連続点) を鋭敏にとらえるための諸感覚を磨くこと。
- ② 問題点等の本質を認識し、推論すること。

③ それらの解消や止揚に向けて、物事同

士の関係をふまえ、拡散的な思考を働かせながら仮説を立てること。

- ④ いったんできあがった仮説をテスト (再テスト) すること。
- ⑤ その結果を誰かに伝達しようとすること。

このような学習過程の各ステージには、生徒の強い興味・関心だけでなく、必要感に裏打ちされた技能や能力を操作的に組み入れることができる。その結果、具体的な指導の目標や手順も明確になり、基礎的・基本的な学習をふまえた発展的な学習として、創造的な学習を定着させることができるであろう。

具体的な学習例..

詩の創作指導の工夫

中学校国語科では、詩の鑑賞指導は行われているが、創作指導は低調である。最近では教科書教材も見当たらない。上越教育大学国語科実践学研究会グループでは、このような現状をふまえ、創造的な学習を①～⑤のようにとらえて、次のような試案を発表するに至った。

(1) 単元名

「詩創作にチャレンジしよう」

(2) 単元設定の理由 (略)

(3) 指導目標

- 身近な題材をさまざまな角度から観察し、創造力を高め、自分のものの見方や考え方を広げようとする (関心・意欲・態度に関する目標)。

- 身近な題材の観察から考えたこと・発見したこと・想像したことなどを、言葉を工夫して詩に表現することができると「書くこと」に関する目標。

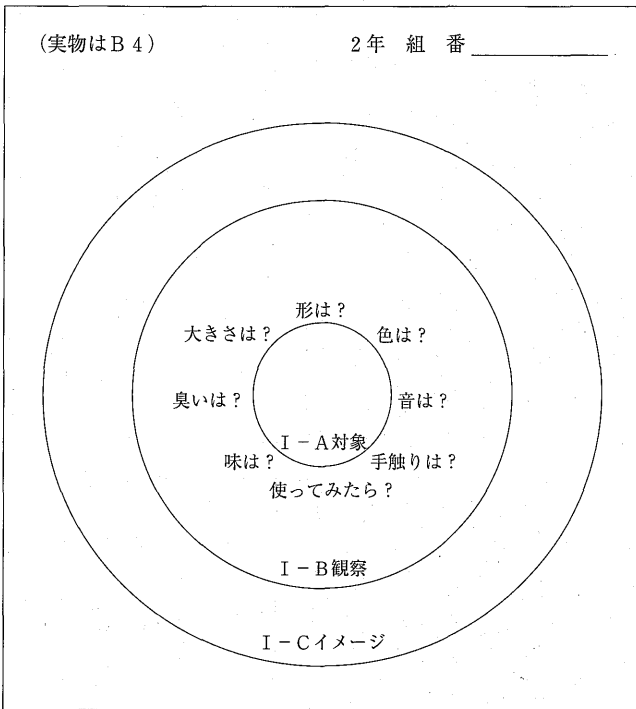
- 友人の詩を鑑賞して、感じたことや考えたことについて意見交換し合えること「話すこと・聞くこと」に関する目標。

(4) 指導計画

《第一時》

- ① 学習の概要説明 (略)
- ② この学習における詩の定義の確認 (略)
- ③ 自分の身近にあるものから書きたい対象を選ぶ【題材】*ワークシート (WS) I I A
- 教室にいる自分から、見えるもの・触れるもの・使えるもの・聞こえるもの等
- ④ 対象をよく観察した結果をワークシ

図 ワークシートI 「詩創作にチャレンジしよう」



- トに記入する【集材】*WSIーB
●対象「目で見たら 色は? 形は? 大きさは?」「耳で聞いたら 音は?」「手で触ったら 感触は?」「使ってみたら 音は? 動きは?」等
- ⑤観察結果からイメージできる言葉をできるだけたくさん記入する *WSIーC (図)
- ⑥ワークシートIの三重円のなかから、

- 詩に使ってみたい言葉、自分だけの「発見・感動」「感情」「想像・空想」「意志・主張」等につながると思われる言葉に赤丸をつける
- ⑦赤丸をつけた言葉を参考に、「私の思い」(最も表現したい思い)と「私のお気に入り」の表現を記入する…主題につながる表現 *WSIⅡ(略)
- ⑧「私の思い」を中心に、自分が表現したい言葉を、順序を考えながら並べてみる…詩の原型が完成(下書き) *WSIⅢ(略)

《第二時》
①グループ内でお互いの作品を読み合い、「素晴らしい」と思ったところ「こうすればもっとよくなると思うところ」についてメモする *WSIⅣ(略) *各自WSIⅢに、納得の

- いかない表現・アドバイスをもらいたい表現に傍線を引いておく
- ②メモをもとに感想を述べ合う【相互批評】
- ③プリント「詩創作の手引き」(略)の配布と説明
- ④「手引き」と意見交換を参考に、各自の作品を推敲して清書する【推敲】
- ⑤数名に作品を発表してもらい、数名に感想を発表してもらおう

評価研究の重要性

創造的な学習の指導で最もむずかしいのが評価である。この学習例でも例外ではない。三重円は外へ外へと波紋のように広がっていくが、選択用語であっても内へ収束させる意識が必要ではないかとの指摘もある。

試案では、「赤丸」によって一応の推敲意識の深化が図られると考えたものの、効果のほどは確認されていない。このような一技法をこえて、新たな自己評価の枠組みが必要かもしれず、これは実地研究の重要な課題である。